

# 大相撲総社場所



## 初切 (しよっきり)

相撲の禁じ手を面白おかしく紹介する見世物。相手を蹴り飛ばしたり、力水を吹きかけたりする。当日は、栃佐藤と栃満が演じた。



## 樽太鼓打分(やぐらだいこうちわけ)

昭和44年に相撲界初の生存者叙勲を受けた「名人呼び出し 太郎」が始めたもの。寄せ太鼓、一番太鼓、はね太鼓が披露された。



## 相撲甚句 (すもうじんく)

土俵上に6~7人の力士が輪になり、輪の中央で一人が出て独唱。他の力士が手拍子を入れたり、「あーどすこいどすこい」といった合いの手を入れたりする。総社場所の相撲甚句は、「またのご縁があったなら、再び総社市へと参ります」と栃岐岳が締めくり、会場からは拍手が送られた。



総社場所の結びの一番。鶴竜 対 稀勢の里



満員御礼となったアリーナ



義援金贈呈

# 満員御禮 大相撲総社場所

特に大きな歓声を送られました。このほか、力士が輪になり、一人ずつ手拍子に合わせて歌う相撲甚句や、禁じ手を面白おかしく紹介する初切、樽太鼓打分を披露。十両土俵入後は遠藤が髪結を、十両取組後は稀勢の里が綱締を実演し、来場者は本場所では見られない巡業

ならでは面白さを堪能することができました。取組の合間には、日本相撲協会から西日本豪雨で被害を受けた岡山県に対して300万円の義援金が贈呈され、代表して片岡市長が巡業部長の春日野親方から受け取りました。問い合わせ 生涯学習課 体育振興係 (☎083367)

大相撲総社場所が10月20日、きびじアリーナで開催されました。市内で公益財団法人日本相撲協会による大相撲の巡業が開催されたのは、初めてのことで。総社場所は、西日本豪雨により市内で甚大な被害が生じたことから開催が危ぶまれましたが、復興に弾みをつけようと「がんばろう大相撲総社場所」と銘打ち開催。発災直後は避難所になり約1400人が身を寄

せて不安が漂ったアリーナでしたが、この日は来場した4800人の笑顔が会場内に溢れました。午前8時の開場を知らせる一番太鼓が会場の外に響くと、早朝から並んだ大勢の観客が公開稽古を観戦。握手会では、目当ての関取と触れ合おうと長蛇の列ができました。午前11時過ぎ、序二段から取組を開始。幕下では、県内出身の西大司、米風の名前が呼び上げられると、



幕内土俵入



豪栄道 対 栃ノ心



横綱土俵入 (稀勢の里)

